

# 電力会社の有価証券報告書で見る 対処すべき課題

## 2018年度版

2018年4月1日～  
2019年3月31日

実は毎年恒例。少し遅くなってしまいましたが、  
原発を持たない沖縄電力以外の各電力会社の有価証券報告書にある  
「経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」  
という項目から原発関連の記述を見ていきます。

## 北海道電力



泊発電所の早期再稼働の実現に向けて、  
新規制基準適合性審査における最優先課題である  
敷地内断層の活動性評価については、新たに追加調査を行い、  
得られたデータに基づき、できるだけ早く検討結果を取りまとめ、  
審査会合で説明していく。  
また、残る課題についても原子力規制委員会の理解を得られるよう、  
総力をあげて取り組んでいく。

## 東北電力



原子力発電については、安定供給、経済効率性、環境適合の観点から  
重要なベースロード電源であり、再稼働により火力燃料費の低減効果が  
期待できることなどから、  
引き続き、新規制基準への適合性ととどまらず、より高いレベル  
の安全確保に向けて、安全対策工事を着実に進めていく。

## 北陸電力



供給安定性、経済性に優れ、発電時にCO2を排出しないことから、  
ベースロード電源として重要な役割を担う志賀原子力発電所の  
安全強化に徹底して取り組むとともに、新規制基準への適合性確認審査  
に的確に対応し、早期再稼働を目指していく

## 中部電力



今後も新規制基準への対応にとどまることなく、  
浜岡原子力発電所の安全性をより一層高める取り組みを継続的に行い、  
浜岡原子力発電所を重要な電源として引き続き活用するための準備を  
進めてまいります。

# 東京電力



柏崎刈羽原子力発電所の再稼働にむけた取り組みについては、引き続き、耐震補強などの安全対策工事や、7号機の工事計画認可の取得に向けた対応、6号機の審査に向けた準備を着実にすすめていく。

東通原子力発電所については、他事業者との共同事業化に係る枠組みのなかで検討をすすめ、本格的な地質調査と並行して、パートナー候補と丁寧に協議していく。

# 関西電力



原子力発電の強みをベースに、再生可能エネルギーは、設備容量を2030年代に600万kWとすることを目指して開発を進め、非化石電源の「両輪」としていく。

# 中国電力



島根2号機については、原子力規制委員会における新規制基準への適合性審査が進められており、地震・津波関係の審査が概ね終了し、本年2月から設備関係の審査が再開された。再稼働に向けて着実に前進しているものと受け止めており、今後も総力をあげて対応していく。

島根1号機の廃止を考慮すると、島根3号機の早期運転開始はもとより、新規原子力である上関原子力発電所の開発はこれまで以上に重要な経営課題であり、早期に着手できるよう、引き続き取り組んでいく。

# 四国電力

「経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」として原発の記述なし

# 九州電力



原子力発電については、安全を大前提として、最大限活用するとともに、経営の最重要課題として、特定重大事故等対処施設などの早期完成に向けて、引き続き最大限の努力を傾注するなど、原子力諸課題(安全・安心の追求、使用済燃料貯蔵対策、廃止措置など)に真摯に向き合い、解決していく。

## 最後に一言

この中で新規原発を考えているのは東京電力と中国電力。東京電力は論外ですよね。あれだけの事故を起こしたんだから一発免停どころか免許取消でしょ？それがよくもまあ新しい原発の話をしたもんだ、と呆れちゃいます。しかしまあ、新增設とまでは言わないまでも、どこもかしこも、なんでそこまで原発を動かしたがるのか？民間企業は自社の利益を第一に考えているはずですから、原発を「動かした方が利益になる」あるいは「動かすと言いつけないと不利益になる」のどちらかです。いずれにしても会計の仕組みが見えないとなかなかわかりにくい気がします。会計視点というのも今後意識していきたいと思っています。